

ふかまちのまど

第三八号 〇五年一月一日
発行元 深町町内会連合会
連絡所 六三三三八二

町内会連合会活動報告

第一回市民体育大会

体育部長 中村 純

十月九日、三原運動公園で第一回市民体育大会が開催されました。



今年はい三町合併により、旧三原市においても出場チームの合併をした地区がありました。深町においては単独参加出来ませんでした。

前日まで天気が心配されましたが、大会当日は秋晴れのよい天気。選手、役員、応援の皆様大変ご苦勞様でした。

残念ながら成績は良くありませんでしたが、親睦を深める楽しい一日でした。

深小だより

子どもたちの安全のために

深小PTA会長 安藤志保

メディアでの報道もあり、ご存知のことと思いますが、十月は、玩具店から大量のエアガン等が盗まれたり、小学校への脅迫電話がかかるなど、三原市内で事件が続きました。

これまでにエアガンを使った事件で実際に被害が出るなど、全国的にも問題になっており、特にエアガンの盗難は心配な事件です。早急に解決されることを願っております。

かねてより、子どもたちが犯罪に巻き込まれたり被害にあうことのないよう、子どもたちへ指導しており、地域のみならずにも防犯パトロールなどにご協力いただいているところではあります。いっそうのご配慮をいただければ幸いです。

女性会だより

高年部活動 深町女性会 林 一恵

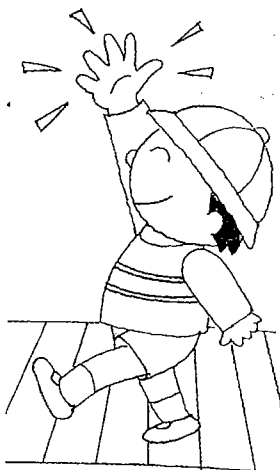
深町女性会では、六〇才以上の方を対象に「たのしもう会」という高年部活動をしています。会員の皆さんで会の名前をつけました。名前のとおり、これからの人生を楽しみながら過ごせたらいいねと、ワイワイと話しながら、手先の芸術を楽しんでいます。



今年「しびれしらず」を作っています。牛乳パックでリサイクル。お説法にも、講演にも、しびれを知らない小さな腰かけです。皆様も一緒に楽しみませんか？

広島県知事選挙

十一月六日(日)



これからは下校時には薄暗くなってきました。散歩やウォーキングなどされている方には、時間帯を合わせて歩いていただけましたら、たいへん助かります。私も町内をよく自転車ですべていますので、お気軽にお声を掛けていただければ幸いです。

千川神社より御礼

千川神社責任役員 西本 一二三

秋の大祭につき町民の皆様には出費多端なところご無理な寄付をお願いし、ご出宝下さいました。誠にありがとうございます。役員一同厚く御礼申し上げます。



前日からの雨で準備も大変でしたが、予定の時刻頃には雨も上がり、大勢の参拝者が来られた中で全ての行事を盛大に相済まされましたことを誠にありがとうございます。感謝致します。

今年本殿の座板張りや神楽殿の階段を修復し、新しくなりましたので報告致します。工事の施工は上組の西永貞雄棟梁にお願い致しました。

女子部だより

子ども会会長 小川和彦

霜降の候、町内の皆様方には、ご健勝の事とお慶び申し上げます。

平素は、子ども会活動に格別のご理解とご協力を賜わり誠にありがとうございます。

さて、十月二十二日(土)ソフトボール三原市長杯が行われ、六年生にとっては、最後の公式戦とあって、チーム一丸となりプレーしました。球運つたなく敗れました。試合後、くやし涙する子ども達を見て、来年は嬉し涙で終わればと思いつつ球場を後にしました。

ソフトボール、キックベースボールともに新チームになります。両チームの六年生の選手のみなさん、ご苦勞さまでした。



試合結果

三原市長杯

一回戦 深町1ー5糸崎ドンキーズ

(追記)十月二十三日(日)三原市子ども創作大会に三十名の子も達と参加しました。

謹んでお悔やみ申し上げます

頼兼義徳様 (仲城講) 十月一日 七六歳

深町各種団体十一月行事予定

- 小学校・幼稚園
 - 参観日 一日
 - 学校へ行こう週間 一〜七日
- 園児募集 一〜十一日
- 保健指導 二日
- 体重測定 四日
- 集金日 八日
- PTA役員会 九日
- 貯金日 十日
- 英語活動 十一日
- 学習発表会 二七日
- お楽しみ会 二九日
- 英語活動 三十日
- びよびよハウス 三十日
- 女性会
 - 親睦会 上 十六日
 - 如水館中学・高校 中 十日
 - 中学文化行事 二三日

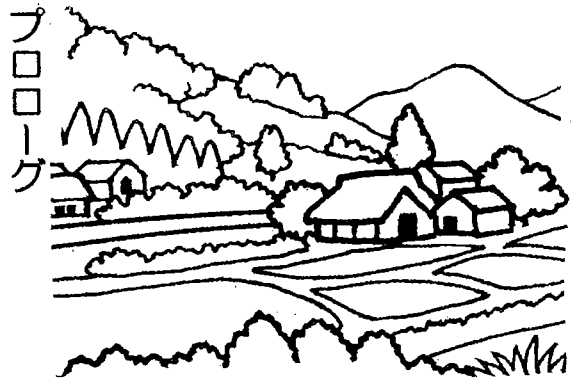
展望席

勤勞感謝の日。勤勞を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝し合う日とされています。「勤勞」とは、苦勞しながら、一心に仕事を行う。と辞書に書いてあります。楽に仕事をしたいは何か申し訳がない気がするものです。とくく楽しそうに仕事をしたり、余裕を持って仕事をしていると、たちまち「ええ身分じゃのー」、「暇なことよのー」等の言葉を浴びたりします。過勞死や仕事上のことでの自殺が絶えないのも、そんな勤勞意識の重圧が一因かもしれません。

「仕事」が「死事」になってはいけません。「勤勞」をせめて「勤朗」という漢字に変えて、勤勞のイメージを「苦勞して仕事を」から「楽しく朗らかに仕事を」に変えて実践していくてはどうでしょうか。

私の友人で、整骨院を経営しているAさんは、月十人ほどの診療、施術と週三日の健康体操教室の実施で生活は十分できている。それ以上余分な儲けはしない。あとはボランティア活動、好きな農業、自由時間とし、五反の田んぼは稲を夫婦仲良く手植えをしていきます。常に明るく朗らかに仕事をし、社会に貢献しながら自分の責任を果たし、人生を存分に楽しんでいきます。人それぞれ色々な考え、生き方があると思いますが、改革の時代、労働時間短縮の時代、勤勞の意識改革も大事な時代。

下組 小林 徳蔵



六年間とは、平成元年(一九八九)から平成六年までの期間をいいます。

広島県に新しい時代が誕生しつつあった時期でしたから深へも深始まって以来という社会変動の波が押し寄せてきました。本篇は、六年間の記録です。記述は深の住人の目で記し、出来事には日付けを添えました。事件は原則として起きた順に述べました。

例外として主題の六年間より古い時期の出来事を、冒頭に三コマ挿入しました。第一章1から3までの記述がそれです。第一章の4から平成元年の記述となります。

戦時中の思い出(一)

中組 高崎 壽郎

私は小学校へ行っていない

戦時中とは、わが国が主に世界の強国の米英と戦った太平洋戦争中のことです。

昭和十六年(一九四一)四月一日は私の入学式の日。でも、私は小学校へ行けませんでした。毎年入学式近く「私は小学校へ行ってないんだよ」と子ども達に話すと、「なぜ」「ウソッ」「病気だったの」などの言葉が返ってきます。

実は、この年から小学校は改称され、「国民学校」といわれるようになったからです。

入学式の一ヶ月前、政府は、「国民学校は皇国の道に則りて初等普通教育を施し、国民の基礎的練成をなすを以て目的とす」との国民学校令を公布しました。

政府は、児童一人ひとりが小国民として、戦時体制に適応できる教育を目指しました。国民学校の名称は、作家の山本有三(路傍の石、真実一路などで有名)の発案でした。

第一章 深の記憶-四コマ

1 深の峠改修

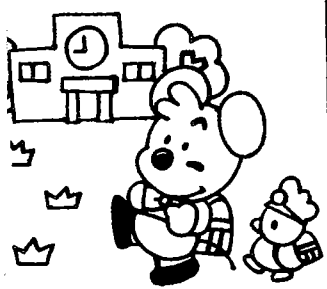
深は昭和二十六年四月に三原市へ合併しました。合併交渉の際、第一に深があげたのが深の峠の改修でありました。改修は暗黙の了解がついていたと聞いていますが詳細は不明です。

深は三原市深町と名称が変わり、下組まで市営バスが通い始めるし、中学校は学校組合立中部中学校深分教場から三原市立第二中学校深分校と、都会らしい名前になりました。

合併の翌年、深分校は廃校となり生徒は全員がスクールバスで本校(所在地、糸崎町)へ通学することになったのです。スクールバスの運行で深の峠の改修は喫緊の事となりました。しかし、平成元年現在、実現していません。

2 安全な通学路を

深地域内では、通学路の安全のために県道五十五号線の大池から深小学校前までの間に歩道設置要望の運動がありました。



私の最初の記憶は、国民学校入学と同時に始まるのです。それまでは平凡な生活だったのか、全くにも思い出せないのです。

現在、入学式当日の古びた写真が一枚残っていますが、はじめて同級生とわかった子もいます。当時田舎では、保育所も幼稚園もなく、いっしょに遊んでいても年齢がわからなかったのです。

私の母校は、御調郡市村国民学校(現尾道市立御調中央小学校)。一年生は、男子二六名・女子二二名の計四八名で、担任は女先生。当時は児童数五〇名でも六〇名でも一クラスでした。その国民学校は、昭和十六年(一九四一)四月一日から、昭和二十二年(一九四七)三月二六日まで六年間続きました。私の一つ年上の人は、小学校入学・国民学校卒業、一つ年下の人は、国民学校入学・小学校卒業で、私達は入学卒業とも国民学校でした。

古い記録は地域の記憶であるといわれています。その意味では、この件は一切記録がなく記憶とはいえませんがわたしの聞いた限り三回はあったようです。年月不詳、上組か中組かの有志数名が手をつけたのですが不成功に終わったというのです。何年か経った後、前回と全く別の有志による取り組みもなされたがこれも崩れたそうです。さらに年月を経てPTAも取り組みましたが不成功でした。安全な通学路を確保しようという地域の課題も平成元年まで先送りされて残っていました。

3 深の町内会

町内自治組織の要一町内会はどうなっていたのでしょうか。平成元年(一九八九)深町の人口構成は、二七三世帯、八八二名となっていました。(註、数字は平成二年一月二日調)。この二七三世帯が上組、中組、下組の三地区に分れ、地区ごとに町内会を組織して暮らしていました。おのおの町内会は自主独立で運営されていました。不思議なことに深全域を統合し指揮する仕組みは欠落していました。

短歌・俳句・詩

中組 仲峠講 竹内博満

雑草や団栗集め学校の

給食パンにした秋思う



夕風に微かに震い空蟬は

この世は業を掴みあること

坂道を息弾ませて一団の

若者走り汗の輝き

だから、「私は小学校へは行ってない」といったので、これからの学校の歴史に、こんなことは二度とないでしょう。

私が国民学校一年生の冬、昭和十六年(一九四一)十二月八日未明、我が軍は米国の真珠湾を奇襲し、太平洋戦争(第二次世界大戦)へ突入しました。(次号へつづく) ▲▲

4 ほろび

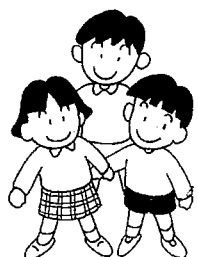
さて、話は平成元年の深の外近隣地域の情勢に移ります。深の外では、山陽自動車道、新広島空港の工事ははじめとして国と県レベルの工事が進捗中でした。高速交通時代の到来は目の前に迫っていたのです。

山陽自動車道の尾道インターから五キロメートルという深町の立地が世の注目を浴び始めたのはこの時期です。深の存在価値が高くなると深へ及ぶ影響も予想を超えて広範囲、且つ多岐にわたりました。やがて待ったなしの分岐点に立つことになりました。ここに至って深型町内自治の仕組みは、随所にほころびが出てきたのです。(次号へつづく) ▲▲

地域の方に支えられて

上組 小林 千穂

深町へと嫁いで十七年、なんだかあつという間に過ぎた気がします。慣れない土地、新しい家族に戸惑っていたことが嘘のように、今では三人の子の母親として毎日忙しく生活しております。



高校一年の娘を頭に、中学一年生、小学五年生と、まだまだこれからの我が家ではあります。子どもが大きくなってきた、小学校に関れるのもあと二年もないな・・・と思うと、今までの事を思い出しながら地域の方にも色々な事で支えて頂いている事を感じています。

深小学校まで約二キロ、毎日通っているわけですが、そんな中でも「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえり」など、地域の方より声をかけ続けて頂いており、トイレに困っている息子にトイレを使わせて頂いたり、登下校の道のりを不安なく通わせておられます。

また、小学校で行われる大きな行事に参加して下さった方より、子ども達が頑張った事に対し、我が子、我が孫のように「よくやったね」と声をかけて頂いたり、皆様よりいつも暖かく見守って頂き、本当に感謝しております。

近頃、ニュースで色々な事件を耳にし、どの親も不安は一緒だと思えます。深小学校へ通う子ども達が安心して通えるよう、これからも皆様の暖かい声かけをよろしく願います。 ▲▲